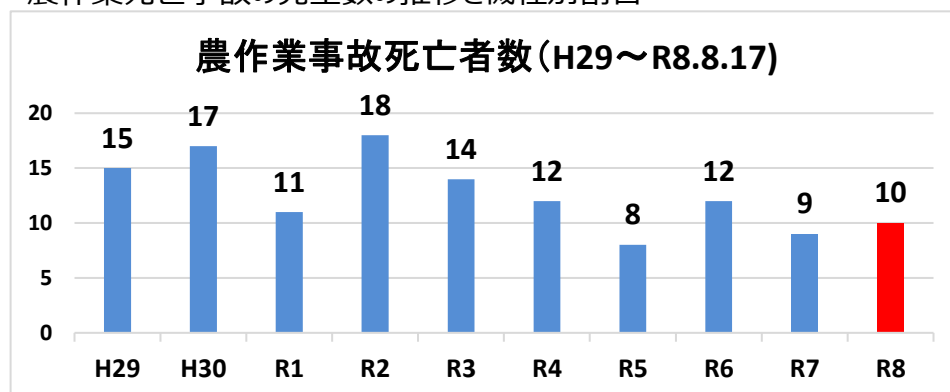


1 農作業死亡事故の発生数の推移と機種別割合



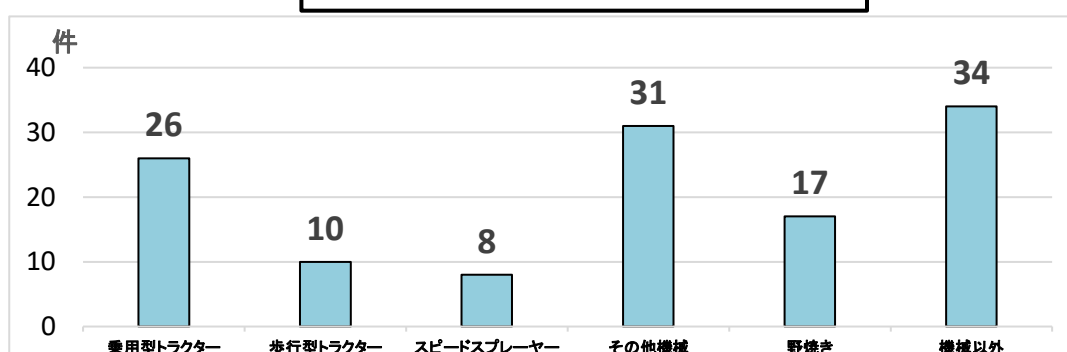
平成29年から令和8年8月17日までの死亡者の総計は126人（上記グラフ参照）

10年間で平均すると12.6人

死亡事故は乗用型・歩行型トラクターによるものが多い

※死亡事故は、当事者が事故発生から24時間以内に亡くなった場合の件数。

機種別発生数 (H29～R8.8.17)

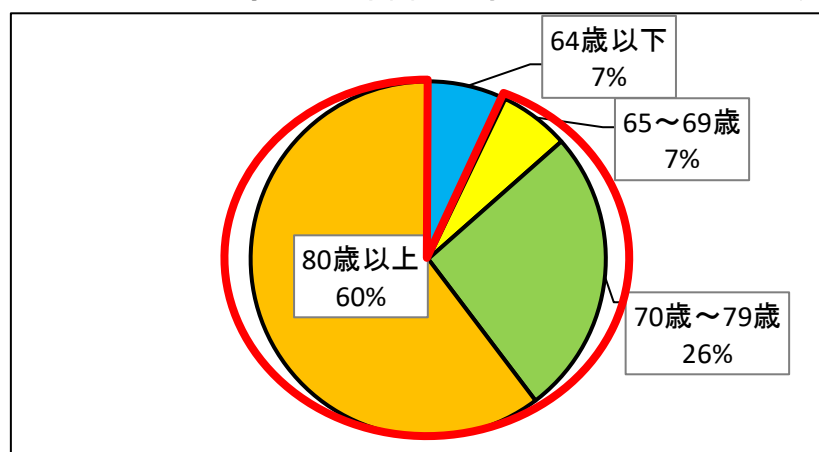


- ① 犠牲者が最も多いのは乗用型トラクター
- ② その他機械では乗用型草刈機（11件）、機械以外では熱中症（18件）が多い
- ③ 乗用型トラクターによる死亡事故はR6に3件、R7に2件発生、R8は3件発生。

2 年齢別死亡事故発生状況

農作業死亡事故の93%は65歳以上の農業者

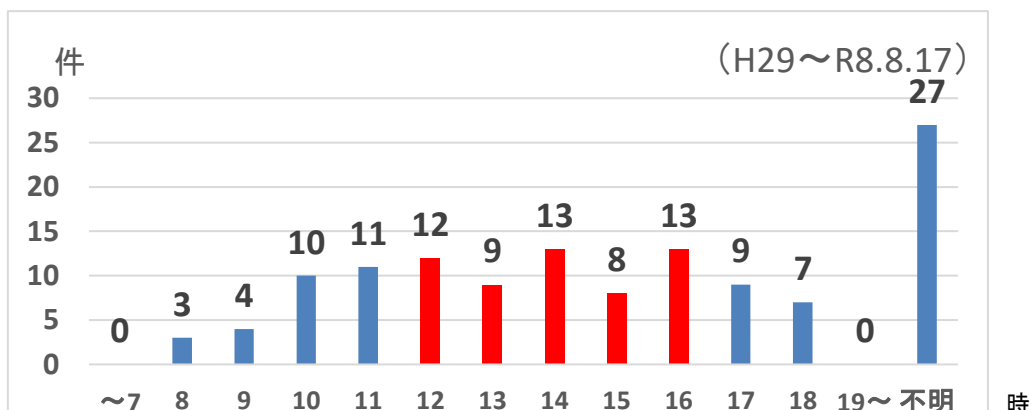
死亡事故の年齢別割合 (H29～R8.8.17)



- ① 農作業事故死亡者の年齢は、年々高齢化している。
- ② 主な原因として、農業従事者が高齢化しているほか、運動能力・反射神経の低下が考えられる。

3 時間別農作業死亡事故発生状況

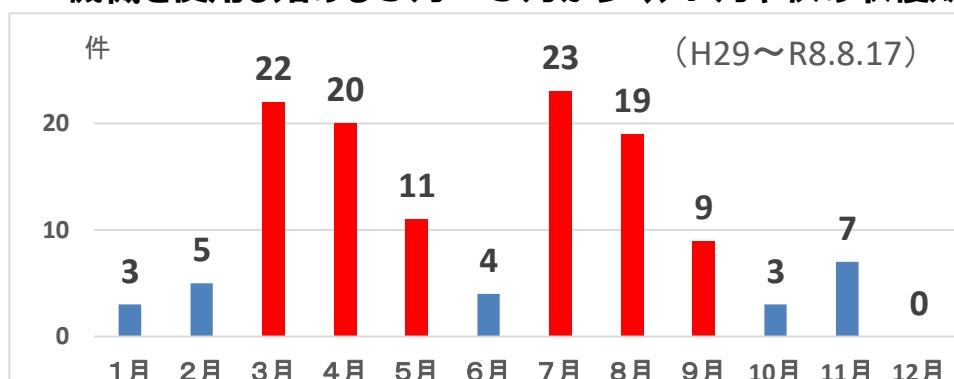
農作業事故が多い時間 12時～16時



- ①～12時：作業による疲れ、昼までに作業完了させようという焦り
- ②12時～14時：お昼に休まず無理して作業、高温による熱中症の危険
- ③14時～16時：体力、集中力低下

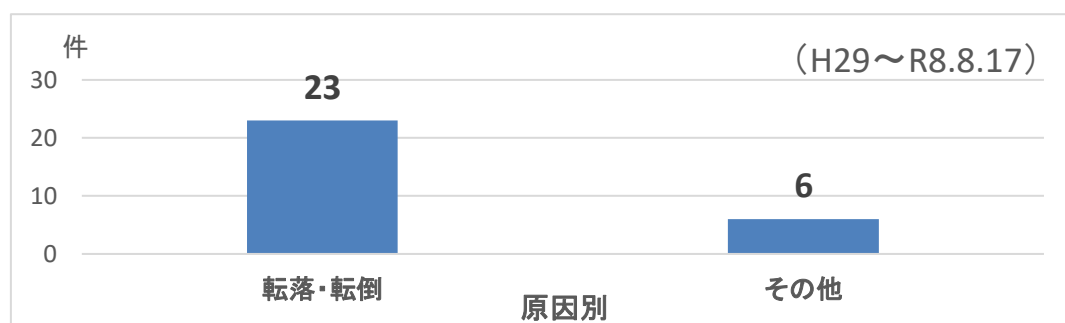
4 月別農作業死亡事故発生状況

機械を使用し始める3月～5月が多く、7月や秋の収穫期にも多い。

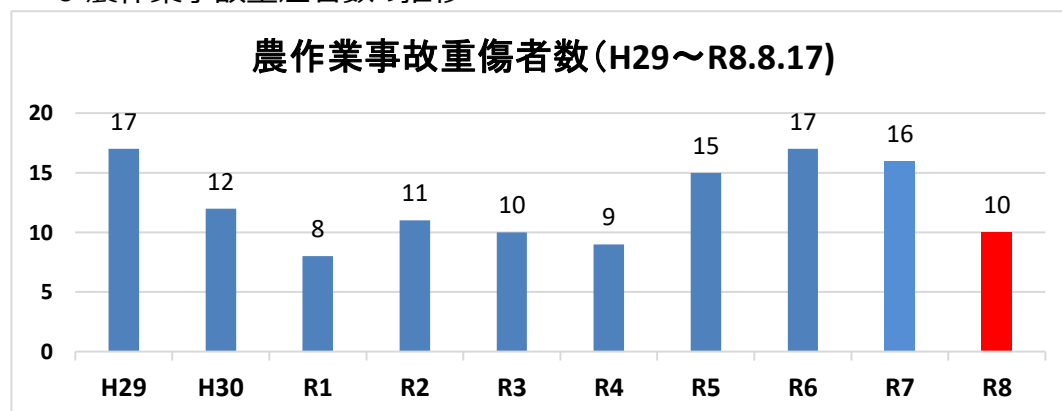


5 トラクター死亡事故の原因別発生状況

乗用型トラクターの死亡事故は、そのほとんどが転落・転倒事故
(死亡事故は安全フレーム未使用・シートベルト未装着が大部分)



6 農作業事故重症者数の推移



※重傷事故は、当事者が事故発生から24時間経過後に亡くなった事故及び1カ月以上の入院又は通院の必要のある場合の件数。